

Ⅷ 授業方法の改善と授業評価

長岡大学では「学生に毎日影響を与える授業は大学の命である」という基本認識をベースに全ての授業の質を最高度に高めるため、開学（平成13年度）以来、学生の授業評価（授業アンケート）を実施してきた。平成19年度の後期は授業アンケートの全面的な改訂を行いより多角的に授業を評価できるようにした。

1 授業方法の改善

授業方法、教育手法を連続的に改善するために毎月のFD研究会において多様な検討課題を議論し、新しい取組に果敢に挑戦した。

効果的な取組の具体例としては以下のようなものがあつた。

第1に、前年度の「授業等についてのアンケート」の結果を受けて全教員に担当授業に関しての改善に向けた所感を提出してもらい、授業の管理・内容・手法等の点で担当授業の改善を実施する契機をつくつた。

第2に、授業アンケート・フォームの大幅な改訂を行った。授業全体への満足度や授業スピードの適切さを学生への質問項目に加えるなど、従来のアンケートよりさらに緻密に授業を評価するものになった。

第3に、学生のキャンパスにおける友人作りを支援する方法が検討され一人一人の学生がキャンパスに友人がいる状態を形成することへの挑戦を開始した。

第4に、厳格な講義管理の徹底に関する全教員のコンセンサスを形成した。

第5に、自由度の高い日々を送る学生に対して、自主的に目標を設定して有意義な生活を送る習慣をつけさせるために自己発展チェック・シート（Self-Development Sheet：SDS）の本格的な導入が実現した。

特に厳格な講義管理の徹底は授業全体・大学全体の雰囲気を変えてくれるものになった。どんなに内容の良い授業を教員が準備したとしても、欠席者、過度な遅刻者、私語を発生させる者、途中退室する者が発生してしまえば、授業全体の良さを破壊し、まじめに授業に参加している学生の意欲を害してしまうことになる。「厳格な講義管理の徹底について」という依頼文を全教員に学期の初めに配布し、全教員が担当授業において講義の管理を徹底することにした。この結果、全ての授業において過度な遅刻者、私語をする者等はいなくなり、完璧に静粛な良い雰囲気の授業環境が実現した。新入生や科目履修生の市民の方からも「長岡大学の授業は学生の受講態度が極めてまじめなことに驚いた！」という賛辞の声を多数いただいた。

自己発展チェック・シート（Self-Development Sheet：SDS）の本格的な導入も画期的だった。SDSは1・2年生用シートと3・4年生用シートの2種類を作成した。（第Ⅱ章参照）1・2年生用シートは各項目の記述内容に関して具体的な例示の中から選択して記入する形式を採用し、十分な構想力がない学生にも作成できるように工夫した。3・4年生用シートは学生自らが自由に記述する部分を多くして伸びてきた構想力を生かすような形式にした。

2007 年度 F D 研究会のテーマ

月	テーマ
6 月	1) 産学融合型専門人材開発プログラム—長岡方式—（報告書）の解説 2) 2006 年度講義等アンケートの結果、各教員の所感等について
7 月	1) 「授業等についてのアンケート」の結果分析 2) 満足度調査の結果分析 3) 講義アンケート改善のポイント
8 月	—集中 F D 研究会— 1) 講義アンケート等その他多数のアンケートの見直し 2) 授業・ゼミ I ・ゼミ II 等の内容 3) 自己発展チェック・シート 4) 日常的クレームへの対応のしくみ
9 月	1) 「長岡大学の授業等についてのアンケート」の結果分析 2) 自己発展チェック・シート
10 月	1) 学生のキャンパス内友人作り支援について 2) 『2007 年度前期長岡大学授業アンケート結果』に関する意見交換
11 月	1) 新授業アンケート 2) 新満足度アンケート
2 月	1) 学生を積極的に大学に参加させる方策について
3 月	—集中 F D 研究会— 1) 就職内定獲得の要因 2) 卒業時の学生の到達目標 3) 社会人基礎力の育成 4) 長岡大生の生活と大学についてのアンケート 5) 成績評価と学生の不公平感 6) G P セッションで発見した「新しい大学のトレンド」 7) ゼミナール I の内容 8) その他

厳格な講義管理等の徹底について

1. 私語封じ込めの徹底

私語を抑えられない講義に学生は強い不満を持ちます。以下の方法も参考にし、私語封じ込めを徹底して下さい。

- ①前方に座ることをルール化する。(後方に固めて座らせない)
- ②学生間で離れて座ることをルール化する。
- ③通路側・窓側・壁側等への座席指定
- ④質問を連発して常に緊張感を高める。
- ⑤作業(適度な筆記等)によって忙しくさせる。

2. 遅刻防止・エスケープ防止・偽装出席(代筆)防止・出席管理厳格化の徹底

過度の遅刻者・エスケープ学生・偽装出席(代筆)の学生は厳粛な講義の雰囲気破壊します。以下の方法も参考にし、絶対にそのような学生が現われないようにして下さい。

- ①「オリジナル出席カード」を作成し遅刻者には配布しない。(遅刻防止・偽装出席防止)
- ②講義終了後でしか「オリジナル出席カード」は回収しない。(エスケープ防止)

3. 携帯電話の管理の徹底

講義中に携帯電話を使用し周囲に迷惑をかける学生がいます。講義中の携帯電話のマナーの徹底をお願いします。

4. ホームワーク等の徹底

月1回程度ホームワーク、小テスト、プレゼンテーション等を学生に課して下さい。

*講義開始から1ヶ月で講義環境は決まると考えます。開始1ヶ月は上記の注意事項を繰り返し学生に訴えて下さい。

2 学生の授業評価

(1) 授業評価アンケートの概要

平成19年度の授業評価は、前期終了授業分までは従来のアンケート・フォームを使用し、講義管理(Class Management)、講義内容(Lecture Contents)、講義手法(Teaching Skills)の3フィールドから授業を評価した。このフォームから算出した評価得点は、最低得点が-2.00、最高得点が2.00となり、学内では1.00を上回れば総じて合格水準の授業であり、1.00を下回る場合は問題のある授業という見方をしてきた。平成19年度前期の全授業の平均値は、講義管理得点1.34、講義内容得点1.18、講義手法得点1.17、そしてそれらを合算した総合評価得点1.24と全体として合格水準の評価が得られたと考える。

平成19年度後期より授業アンケートの大幅な改訂を試みた。通常授業に対するアンケートについては、「この授業を受けての総合的な満足度を教えてください」という満足度を問う質

問項目を設定し学生の授業に対する総合的な「満足度」を、従来の総合評価得点とは独立させて計測することにした。

満足度以外の質問項目は、①授業環境への取り組み、②授業手法、③授業内容、④担当教員の熱意、⑤授業の進み方の5つのフィールドから評価し、⑤授業の進み方以外の得点を合算して総合評価得点とした。

「授業環境への取り組み」については、私語防止・携帯電話管理・出欠・遅刻や途中退出者の防止の4点から評価し、「授業手法」は声や話し方・黒板等の使い方・テキストや参考文献の活用・宿題等の提示の4点から学生に評価をしてもらった。「授業内容」に関しては、興味のある内容であったか・おもしろい内容であったか・理解しやすい内容であったか・テーマの明確さ・知識や技能等が伸びたかの5点から、「担当教員の熱意」は、熱意があったかどうか・友人や後輩にすすめられるかどうかの2つの質問項目から評価を計測した。

新アンケートでは上記の「授業環境への取り組み」「授業手法」「授業内容」「担当教員の熱意」の4フィールドの各評価項目で低い評価を学生がつけた場合にその理由も記入できる欄を設定し、各評価項目に関連した具体的な学生の不満内容を詳細に吸い上げる工夫もした。

ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡ・ゼミナールⅢ・Ⅳの新アンケートについても、「このゼミナールを受けての総合的な満足度を教えてください」という質問項目を設定し、学生のゼミナールに対する総合的な「満足度」を計測するようにした。そして、満足度に寄与すると考えられる要素を評価する質問項目を、各ゼミナールの学習内容を考慮して設定した。

*新アンケートは巻末参考資料3を参照

(2) アンケート結果の分析

新アンケートの評価得点算出に関しては従来と同じように、全ての評価項目で最低得点が-2.00から最高得点が2.00となるようにした上で各評価項目ごとの得点、それらの主要得点を統合した総合評価得点を算出した。1.00を上回れば合格水準であり、1.00を下回る場合は全面的な改善が必要であると考えている。

平成19年度の通常授業に対する評価は、満足度の平均値が1.09であった。通常授業の評価対象のべ科目数170科目の中で、満足度評価で1.00を下回る授業が34科目あった。

「授業環境への取り組み」の評価得点の平均値は1.32、「授業手法」の評価得点の平均値が1.31、「授業内容」の評価得点の平均値は1.24、「担当教員の熱意」の評価得点の平均値が1.32、それら4フィールドを統合した総合評価得点の平均値が1.30であった。評価対象のべ科目数170科目の中で、総合評価得点が1.00を下回る授業が18科目あった。

「授業の進み方」に関する評価得点は総合評価得点には統合しなかったが、その平均値は0.37であった。

ゼミナールⅠ（後期）の満足度の平均値は1.32、総合評価得点の平均値は1.41であった。ゼミナールⅡの満足度の平均値は1.16、総合評価得点の平均値は1.24であった。ゼミナールⅢ・Ⅳの満足度の平均値は1.51、総合評価得点の平均値は1.47であった。総じて、少人数できめ細かく学生の能力アップを図れるゼミナールの評価は高かった。

(3) 今後の課題

平成 19 年度後期から授業アンケートのフォームを大幅に改善し、より緻密かつ包括的に授業を評価できるようにした。新アンケートで、授業環境・授業手法・授業内容・担当教員の熱意に関する得点を合算した総合評価得点と、満足度評価得点が乖離する現象が見られた。各科目で満足度評価得点が総合評価得点より低くなっている傾向がある。今後は授業環境・授業手法・授業内容・担当教員の熱意などの各フィールドでの質を上げつつ、学生の授業への満足度を上げるための要素を分析していくことが必要である。

授業アンケートによって担当する授業の評価得点を強く意識して、得点向上へと努力する教員が増えている。これからも教員間で積極的に教育手法を学習しながら、大学全体の授業の質を上げていきたいと考える。